

活動名	団体名
吉島地域の地元住民である町職人と 小学生が連携した「小学生のための物づくり体験」	よしじま職人工房
	地 域
	代表者
	支援金額
活動概要	
<p>ほしいものが苦労せず安値で手に入る現在、大人も子供も物を作りだす力が少なくなってきてています。</p> <p>そこで、地域力を生かして、子供たちにものづくりのおもしろさを、ものを作りながら伝えていくとするクラブ活動を、吉島の地域から集めて計画的に行っていこうと立ち上げました。</p> <p>吉島地域には色々な製造業者があるなか、そこに従事しました今まで従事したもの現在は老後を楽しんでおられる匠が多くおられます。その地元町職人と小学生とが連携し、普段小学校では体験出来ない「ものづくり」を楽しく体験したり、科学に触れることにより、創造性、自主性、協調性を培っていきたい。</p> <p>ひいては、理科が好きになり、将来「ものづくり広島」を担う人材づくりを支援する活動です。</p>	
<p>◆実施時期 2010.6.19～2010.11.27 吉島公民館他</p> <p>◆参加人数 主な参加者 ・吉島小学校、吉島東小学校ほか生徒 ・中原表具工芸社、三村松、土詩窯、ビクター、大道山竹炭工房 参加総人員 244名</p>	



第1回マイ箸つくり(箸削り) 小刀で木を削る



第3・4回粘土でつくろうマイカップ
電動ろくろを使用



第5・6回水鉄砲・竹とんぼ・竹炭風鈴をつくろう
竹をのこで切断



第7回手作りスピーカーで音楽を聞こう
コイル巻き

◆実施に伴う効果

◆協力いただいた各企業に与えた影響

- ①協力各企業は自己の営業以外に、青少年の健全育成に役立ち社会貢献できていることを知ったことは大きな成果がありました。今後とも協力していただける基礎ができたと思います。
- ②小学校からは今後もこの活動を続けてほしい、出来れば小学校でやってもらえないかと言われております。

◆子どもたちに与えた影響

- ①地域に色々な技術を持っている企業があることを知った。
- ②ナイフなどの道具を使うときの危険性、他人に対する配慮など得る所が大きかった。
- ③マイ箸づくり、水鉄砲など殆どが初めての経験らしく、(学校や親から殆ど教えてもらったことが無い)初めはぎごちなかつたが、回を重ねる毎にだんだん盛り上がり、物づくりに興味を持ち始めたことは大きな成果がありました。

◆新聞・テレビの影響

中国新聞、広島ケーブルテレビに取り上げてもらったことは、

- ①子ども達に大きな自信と誇りを持たせました。
- ②各企業にとっても企業イメージが上がり大変喜ばれました。
- ③われわれの活動を地域の方々にご理解いただき、今後の基盤づくりが出来ました。

◆苦労した点

・受講者募集

「キッズだより」で吉島・吉島東・中島小学校に 月1回 全児童に配布 計1,200枚
「公民館だより」で募集 月1回 吉島公民館管内の全戸に配布 計11,200枚
以上合計12,400枚配布しましたが、希望者1回15名がやっと、もともと関心が少ないか、工作品目に魅力がないのか、児童が塾やクラブ活動で忙し過ぎるのか、広報紙を読んでいないのか、募集が悩みの種でした。

・管理指導

6名のスタッフでは児童15名の指導管理が限界と感じました。実施に当たっては前記の通り希望者は、各回15名程度であったので丁度良かったとは言えますが、当初は抽選になる位応募があると予測していたので残念でした。

・危険対策

児童3名に指導者1人の配置とし安全管理に努めました。
レクリエーション保険に加入し万一に備えました。

・児童の工作能力

学校での教育には限界があり経験が非常に少ない。一昔前の子供と比べると能力はかなり下、最初はぎこちなかつたが慣れるに従って上手になり、物づくりが好きになったと感じられます。

◆今後の課題・発展の方向性

今後の方向性

現在の活動がやっと根付いたところです。
今後、地元各企業・学校・公民館などと更に関係を密にして、活動 の継続と発展を期したいと考えております。

課題

最も大きな課題は資金であります。
財団法人マツダ財団様からいただいた支援金を費消した後、運営資金を如何にするかが最も大きな課題であります。

◆活動を終えての感想・意見等

この活動は、財団法人マツダ財団様のご支援を頂いたから出来たものであり、厚く御礼申し上げます。
関係各企業の協力を得ながら、事故もなく予定のスケジュールをこなせたことを感謝いたします。
今後、この活動を継続し更に発展させたいと考えておりますので何分のご支援の程よろしくお願い申し上げます。